

山口新会長を選出し、臨調・「内達」改悪攻撃等への反撃を確認

第五回動労千葉乗務員分科定期委員会は、九月十七・十八日、富津市・鹿野山センターに本部分科役員、委員および傍聴者約六十数名が参加する中、本部より山口副委員長、鶴岡交渉部員が出席し、開催され、全委員、傍聴者一体となった熱気あふれる討議を展開した。

臨調攻撃・内達改悪攻撃に反撃しよう

第一日目は、十三時より深見本部乗務員分科執行委員の司会により開会され、議長に勝浦支部・藤本委員を選出し討議に入った。

西森分科会長あいさつ

はじめに西森会長から「第二臨調をはじめとする国鉄労働運動解体攻撃は厳しく、国家財政の危機を国鉄赤字にラップさせ、政府・権力は、彼らの延命策として、国鉄労働運動つぶしに打って出ている。今次かけられている内達改悪攻撃は民間委託できない部分の『労働密度の強化』が狙いであり、これに対し乗務員分科会は、『内達専門委員会』を設置し分科会としての改正案づくりをおこなってききました。

今日の当局の姿勢は、『現協』問題に端的にあられてはいるように極めて敵しいものであります。さらに内達改悪は、将来にわたって、われわれの労働条件が決定される重要なものであります。従って、全乗務員で真剣に職場討議をして欲しい。とあいさつをうけた。

つづいて本部を代表して、山口副委員長より「政府支配階級の体制的危機突破として、総評労働運動解体・右翼労働統一・三里塚を頂点とする住民運動解体攻撃等がかげられてきており、国家財政の赤字に対しても国民に犠牲をしいる方針を押し出している。われわれ国鉄労働者に対しても数々の大合理化攻撃をかけてきており、『内達』の年度内結着をせまっている。分科会としても新たな観点から充分検討し問題提起しよう。」とあいさつが述べられた。

つづいて、経過報告、運動方針、予算案、規約・規則の改正の提案につづき、「十一職群の張付

基準」、分科会としての「内達改正(案)」が職場討議資料として提起され若干の質疑をもって一日目を終了した。

新会長に山口副委員長を選出し、更なる飛躍を確認

第二日目は、冒頭から質疑応答に入り、各委員より「十一職の張付基準」に対する諸々の問題、内達改悪攻撃と乗務員分科「改正(案)」について、六十才定年延長に伴う高令者対策、「五七・一ダイ改」合理化等々に対し活発な討論が展開されたのち、本部分科会提案どおり「運動方針」を確認された。

また、今回で会長を辞任することになった西森会長よりまとめとして、「われわれをとりまく情勢は敵しいが、乗務員分科会は動労千葉最大の分科会として、『諮問機関』のワクを突破し、分科会独自の運動を打ち立てよう」との訴えがあり、十一時新会長に選出された山口新会長の音頭で全員の力強い「団結ガンバロー」を三唱して終了した。

乗務員分科会の新役員は、次の通りです。

会長	山口敏雄	(千葉転)
副会長	大岩定雄	(新小岩)
事務長	安田庄一	(千葉転)
執行委員	向後正三	(成田)
	渡辺和志男	(勝浦)
	高橋邦彦	(津田沼)
	萱野昌美	(佐倉)
会計監査	小野信	(蘇我)
	上野孝治	(銚子)

わらわら 乗務員分科定期委員会開かる (9/17~18)

六七回動労千葉定期大会の成功をかちとろう

★職場内争体制を一層強め、大会にむけた
★圧倒的傍聴を、
★職場討議を深めよう！

日時・9月30日10時〜10月1日17時
会場・千葉市・千葉グランドホテル